

インクルーシブの窓

令和7年3月 富山県教育委員会 教育みらい室 特別支援教育課



これからも、共生社会の理念の実現のために、
私たちができることを考えていきましょう！



平成24年に中央教育審議会初等中等教育分科会によってまとめられた『共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）』では、「共生社会」と学校教育について、次のように述べられています。

○「共生社会」とは、これまで必ずしも十分に社会参加できるような環境になかった障害者等が、積極的に参加・貢献していくことができる社会である。それは、誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会である。このような社会を目指すことは、我が国において最も積極的に取り組むべき重要な課題である。

○学校教育は、障害のある幼児児童生徒の自立と社会参加を目指した取組を含め、「共生社会」の形成に向けて、重要な役割を果たすことが求められている。（以下、略）

そして、インクルーシブ教育システムの定義が示された上で、次のように続きます。

○共生社会の形成に向けて、障害者の権利に関する条約に基づくインクルーシブ教育システムの理念が重要であり、その構築のため、特別支援教育を着実に進めていく必要があると考える。

学校教育の果たすべき役割について、皆さんはどのように考えられるでしょうか？

昨年11月に本県で行われた「インクルーシブ教育推進フォーラム」の終了後に参加者から寄せられた声に、大きな手がかりがありそうです。

安心して過ごせる場所があってこそ、
新しいチャレンジができ、失敗しても大
丈夫だと思える、そんな学校を目指して
いってほしい。
（保護者）

人と人とのつながり、人としての関係
性がどんな場合でも大切だと思った。
（福祉関係者）

個々のよさをしっかり認
め、自己肯定感を育てるだけ
でなく、周囲の理解、障害の
有無に関わらず、安心できる
居場所づくりが大切だと感じ
た。
（教職員）



同じ場所で同じ時
間を過ごすことが大
切なわけではなく、
みんなの中で一人ひ
とりができることを
自分の力で行うこと
が大切だと感じた。
それを通して新たに
得るものがあると、
よりよい共生社会に
つながっていくのだ
と感じた。（教職員）

「できないことを子供の
せいにししない」「必要なこ
とは子供の姿から学ぶ」と
いうことを思い出した。教
育の場では、「人に大切に
されること、認められるこ
と」「学級の中で、子供全
員が認められること」「大
人への信頼感が育つこと」
が大切だと再認識した。
（教育関係者）

どの人もできる
人、何かができる人
と捉え、その何かを
活かしてあげられる
社会をつくりたい。
学校では、どの子も
自信をもってよさを
知り、よさを表して
いけるように教育し
ていくことが大切で
あると感じた。
（教職員）

フォーラムの
記録は、こち
らから。

